

# 東日本大震災から展望するこれからの高齢者支援 ～被災時から復興期における高齢者への段階的支援とその体制のあり方～

主催：株式会社富士通総研 後援：厚生労働省（予定）、社会福祉法人東京都社会福祉協議会

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、甚大な被害をもたらしました。東北地方は高齢化の進行が顕著であったことから、とくに高齢者に対する支援策もクローズアップされ、在宅高齢者の心身状態の悪化や介護施設の役割、介護サービス事業所によるサービス提供継続の難しさ等が、高齢者を支える基盤の大切さと脆弱さとともに浮き彫りとなりました。大震災という未曾有の困難とこうした状況の中、被災地では地域内のみならず、広域からの支援も実施されましたが、その支援方法やニーズの把握とマッチングについては課題も残っています。

弊社では、東日本大震災における高齢者支援の実態を、岩手県・宮城県・福島県下の全ての自治体と介護サービス事業所等へのアンケート調査とヒアリングを通して把握するとともに、発災時から復興期までの高齢者の支援体制とはどうあるべきかについて有識者を交えて検討を重ねてきました。そしてそこからは、広域連携などによる支援体制の構築とあわせ、地域で高齢者を支える体制の構築こそ重要であることがあらためて見えてきました。それは、現在、国が目指す地域包括ケアの姿とも重なるものと考えます。

本セミナーでは、こうした調査研究の成果を報告させていただき、災害への備えだけでなく、今後の高齢者やコミュニティへの支援、まちづくりのあり方について考えてまいります。

開催日時 2012年3月15日(木曜日) 13:30 開演(開場 13:00)

会場 株式会社 富士通総研 大会議室(定員 100名)

費用 無料

申込方法 以下のいずれかの方法で平成24年2月20日(月)までにお申込ください。

①ホームページの申込みフォームより申込み

(<http://jp.fujitsu.com/group/fri/events/other/chiiki-kaigo2012-tokyo.html>)。

②申込書に必要事項を記入し、FAX(03-5401-8439)で送付。

※参加証を2月24日(金)までに送付させていただきます。当日は、受付に参加証をご提示ください。なお、申込み者多数の場合は抽選とさせていただきます。抽選に漏れた方に対しては特段通知いたしませんので、予めご了承ください。

●【会場】株式会社 富士通総研 大会議室

〒105-0022 東京都港区海岸1丁目16番1号 ニューピア竹芝サウスタワー5階

TEL:03-5401-8386

●会場までのアクセス

新交通ゆりかもめ 竹芝駅出口直結

JR山手線・京浜東北線 浜松町駅北口より徒歩10分

都営地下鉄大江戸線・浅草線 大門駅

B2出口より徒歩11分

お問い合わせ窓口

(株)富士通総研 金融・地域事業部  
(瀬戸、小林)

TEL:03-5401-8386 FAX:03-5401-8439

MAIL:fri-chiiki\_kaigo@cs.jp.fujitsu.com



- 13:30-13:35 開会 (5分)  
長堀 泉(株富士通総研 執行役員、第一コンサルティング本部 金融・地域事業部長)
- 13:35-14:15 基調講演 (40分)  
辻 哲夫氏(東京大学高齢社会総合研究機構特任教授)  
「震災を経て～ 地域包括ケアを見据えた今後のまちのあり方」
- 14:15-14:25 休憩 (10分)
- 14:25-15:05 研究結果報告 (40分)  
名取 直美(株富士通総研 第一コンサルティング本部 金融・地域事業部)  
「被災時から復興期における高齢者への段階的支援とその体制のあり方」
- 15:05-15:20 休憩 (15分)
- 15:20-16:30 パネルディスカッション (70分)  
「東日本大震災からの復興に向けて ～高齢者の生活を支えるのは何か」  
【パネリスト】
- ・ 内出 幸美 氏(社会福祉法人典人会理事・総所長)
  - ・ 野田 毅 氏(社会福祉法人東北福祉会法人本部次長兼せんだんの杜ものう参与)
  - ・ 本間 達也 氏(医療法人生愛会理事長・総院長、社会福祉法人生愛福祉事業団理事長)
  - ・ 黒岩 嘉弘 氏(厚生労働省老健局総務課長補佐)
- 【コーディネータ】
- ・ 山崎 敏 氏(立教大学コミュニティ福祉学部兼任講師)
- 16:30 閉会

#### ◆基調講演講師

##### 辻 哲夫氏

東京大学高齢社会総合研究機構特任教授。東京大学卒業後、旧厚生省（現厚生労働省）に入省。老人福祉課長、国民健康保険課長、大臣官房審議官、官房長、保険局長、厚生労働事務次官を経て、2009年より東京大学高齢社会総合研究機構教授。厚生労働省在任中に介護保険制度創設に携わった。

#### ◆パネリスト

##### 内出 幸美氏

社会福祉法人典人会理事・総所長。震災時、法人の事業所が津波の被害を受けた中、地域住民や在宅の要介護高齢者らの受け入れを実施。震災後は、行政や地域の介護事業者とともにワーキンググループを結成、行政、福祉、医療の境を越えた支援体制の構築に取り組んでいる。

##### 野田 毅氏

社会福祉法人東北福祉会法人本部次長兼せんだんの杜ものう参与。震災後、法人で事業所のある石巻市において福祉避難所を受託運営。また、災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード宮城支部として、様々な関係機関・団体等との連絡調整等を図りながら、利用者支援活動を行っている。

##### 本間 達也氏

医療法人生愛会理事長・総院長、社会福祉法人生愛福祉事業団理事長、公益社団法人全国老人保健施設協会（以下、全老健）常務理事。全老健常務理事として被災地への職員派遣の調整を行ったほか、老人保健施設のネットワークを活かし、避難所にいる要介護者のトリアージ等を行った。

##### 黒岩 嘉弘氏

厚生労働省老健局総務課長補佐。

#### ◆コーディネータ

##### 山崎 敏氏

立教大学コミュニティ福祉学部兼任講師、株式会社トシ・ヤマサキまちづくり総合研究所代表取締役、日本医療福祉建築協会・日本医療福祉設備協会理事。専門は建築学。医療・福祉の分野において豊富な調査・研究を行い、高齢化を見据えたまちづくりにかかわっている。

※本調査研究の報告書は、平成24年3月末を目処に弊社ホームページで公表する予定です。  
(<http://jp.fujitsu.com/group/fri/report/elderly-health/2011support.html>)